

# ビワ生育情報

千葉県  
平成22年6月号

## 平成22年5月の気象

平成22年5月の半旬別の気象は表1に示した。平均気温は第3及び第6半旬を除く半旬で平年を0.3~1.2 上回った。第3及び第6半旬は平年に比べて3.2~3.4 下回った。月平均気温は17.1 で、平年より0.7 、温暖な気候だった前年より1.4 低かった。5月は寒暖の差が激しい月であった。

降水量は第4及び第5半旬で平年をわずかに上回ったものの、降水量が0mmを記録した半旬もあり、月合計は119mmで、平年より59mm(33%)、前年より73mm(38%)少なかった。

日照時間は第1、第2及び第4半旬で平年を上回った。月合計は201時間で、平年より15時間(8%)、前年より36時間(22%)多かった。

3月、4月の天候不順から一転し、5月は好天気が続く日が多かった。

表1 平成22年5月の気象 (暖地園芸研究所)

半旬	平均気温( )			降水量(mm)			日照時間(時間)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	17.2	16.5	18.1	0	22	44	47	30	35
2	18.2	17.2	17.9	5	29	28	40	30	26
3	14.2	17.6	18.3	33	39	0	20	30	34
4	18.0	17.7	18.9	27	26	3	34	30	21
5	19.6	18.4	19.1	38	32	20	30	31	20
6	15.8	19.0	18.6	17	31	98	31	36	29
平均/計	17.1	17.8	18.5	119	178	192	201	186	165

## 7月の作業(果実の発育は次ページ)

7月に入ると梅雨も明け、本格的な夏を迎える。収穫後の弱っていた樹は勢いを取り戻し、夏枝の伸長が盛んであるが、根の伸びは鈍くなる。7月の作業は夏の乾燥期に向けて草刈り、敷き草、カミキリムシの防除がある。

### 草刈り

梅雨明け時期に園内の草刈りを行う。高温乾燥期に草を生やしておく、草に水分がとられ、土は乾燥状態になりやすい。土が乾燥すると花着きはよくなるが、過度の乾燥は樹を弱らせる。草刈りを行い、土の乾燥防止のために刈り草は樹冠下に敷く。

### カミキリムシの防除

カミキリムシはリンゴ、イチジク、クワ、ビワなどを加害する枝幹害虫で、ビワに寄生するカミキリムシはクワカミキリが多い。体長は4cm位、体は黒色地に暗黄色の短毛が密生している。幼虫は枝幹中に食入し、木質部を食べて育ち、枝の中心部を食い荒らすため、食害を受けた枝は折れやすくなり、甚だしい場合には枯死する。また食入部の傷口からがんしゅ病が感染することがあるので注意を要する。成虫は産卵のために、7~8月に現れるので、朝夕の活動の鈍いときに捕殺する。幼虫は食入穴から虫糞を出しているため簡単

に見つけることができるため、穴から針金などを入れてつき殺す。また卵は見つけしだいつぶす。

## 果実の発育

6月1日現在のビワの果径は表2に示した。横径は「楠」が4.31cm、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ4.78cm、4.12cmであった。本年の横径は3品種共に平年より3～8%、生育が良好だった前年より6～13%小さかった。

縦径は「楠」が4.44cm、「大房」及び「田中」は3地区の平均でそれぞれ5.05cm、4.62cmであった。本年の縦径は3品種共に平年より1～7%、生育が良好だった前年より9～11%小さかった。

果径指数は「楠」が0.97、「大房」及び「田中」は3地区の平均でそれぞれ0.95、0.89であった。果形は楠は平年よりやや横長、「大房」及び「田中」は平年よりやや縦長傾向であった。

着色程度は「楠」が2.1、「大房」及び「田中」は3地区の平均でそれぞれ2.2、1.0で、3品種共に平年及び前年より著しく遅れている。

暖地園芸研究所では早生品種の収穫は5月下旬から始まり、「楠」の収穫は6月1日に始まったが、「大房」及び「田中」は収穫には至っていない。生育が良好であった前年の6月1日時点では、「楠」の収穫は終了し、「大房」も収穫が始まっていたが、本年は生育が遅れており、適期収穫に注意する。また、本年は平年に比べ、着花房率が著しく低く、寒害の被害は少なかったものの、着果量は少ない。更に小果傾向であるため、減収が予想される。

本年の果樹カメムシ類の発生は、南房総市ほか県南地域で平年並であるが、今後はやや多くなることが予想されている。また、カメムシの発生の多い園では、ビワ園への飛来に注意を要する。本年はビワの生育が遅れているため、平年よりもカメムシによる被害が増加する可能性が高い。

表2 果実の発育（6月1日の果径）

品 種	調 査 地	横径(cm)			縦径(cm)			果径指数			着色程度		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	暖地園研	4.31	4.45	4.58	4.44	4.80	4.94	0.97	0.93	0.93	2.1	3.1	3.7
大 房	青 木	4.72	5.02	5.15	5.01	5.13	5.31	0.94	0.98	0.97	2.2	3.0	3.9
	南 無 谷	4.67	4.98	5.19	4.90	5.12	5.52	0.95	0.97	0.94	2.1	3.1	3.9
	暖地園研	4.95	5.00	5.46	5.24	5.13	5.76	0.94	0.98	0.95	2.2	2.8	3.7
	平 均	4.78	5.00	5.27	5.05	5.12	5.53	0.95	0.98	0.95	2.2	3.0	3.8
田 中	青 木	4.15	4.48	4.81	4.73	4.96	5.30	0.88	0.90	0.91	1.0	1.8	2.3
	南 無 谷	4.09	4.40	4.64	4.66	4.85	5.13	0.88	0.91	0.90	1.0	1.7	1.6
	暖地園研	4.11	4.52	4.79	4.48	4.95	5.21	0.92	0.92	0.92	1.0	1.6	2.4
	平 均	4.12	4.47	4.75	4.62	4.92	5.21	0.89	0.91	0.91	1.0	1.7	2.1

果径指数：横径 / 縦径

着色程度：1(未着色)～4、5(完全着色)

平年：1986年～2009年の24年間の平均、ただし着色程度は1999年～2009年の11年間の平均

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 果樹・環境研究室 電話0470-22-2961】

果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産技術に関する情報」でもご覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/nourinsui/>